

風水害・土砂災害から身を守る

保土ヶ谷区では大規模な土石流などが発生する可能性は低いものの、地域によっては、大雨による浸水や局地的ながけ崩れなどが発生するおそれがあります。これらの災害から身を守るために知っておきたい情報や心構えなどについて紹介します。

大雨・台風に備える

● 自宅周辺の安全対策をしよう

自宅の建物や周辺でも、浸水や突風に対する備えが必要です。日ごろから点検して、不備がある場所は改善しておきましょう。

屋根

屋根瓦のすれ、ひび割れ、トタンのめくれやはがれなどがないか確認する。アンテナがしっかり固定されているか確認する。

雨どい

継ぎ目はすれや、破損がないか確認する。落ち葉や土砂で詰まらせないように掃除する。

窓ガラス

ひび割れや窓枠のがたつきがないかを確認する。飛来物などに備えて外側から板でふさぐ。

外壁

モルタルの壁の亀裂や、板壁の腐りや浮きがないかを確認する。

プロパンガスボンベ

しっかり固定されているか確認する。

ベランダ

ベランダから物干し竿や植木鉢などが落下しないよう、屋内に片付ける。

雨戸

がたつきやゆるみ等があれば補強する。

ブロック塀

ひび割れや破損箇所を補修する。

側溝

ゴミや土砂を取り除き、流れをよくしておく。

台風や大雨の到来は予測できるからと安易に考えてはいけません。油断せずに、日頃から十分な対策を立てておきましょう。

● 自宅付近で危険箇所がないか確認しよう

土砂災害警戒区域 ⇒ 裏面マップ参照

がけ崩れなどが発生した場合に、住民の生命や身体に被害をもたらすおそれのある区域を都道府県が指定しています。

- ・ 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- ・ 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- ・ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域

急傾斜地崩壊危険区域 ⇒ 裏面マップ参照

崩壊するおそれのある急傾斜地において、その崩壊によって人家などに相当数の被害をもたらすおそれがある区域で、市民からの要望に基づき都道府県が指定しています。

浸水想定区域 ⇒ 裏面マップ参照

1時間で約90mmの大雨(100年に1回降ると想定される降雨)が降り、河川がはん濫した際に被害のおそれがあると想定される区域で、都道府県が公表しています。

